

生きる力を育むために



月2回、講師を招いてのダンス講習

私たち保育教諭は、子どもたちの「生きる力」を育むことを願い、①感じる心（心情）②取り組もうとする気持ち（意欲）③実際に自分で物事にかかわろうとする体験（態度）を大切に、日々の環境を考えています。

今回は、子どもたちにより良い教育・保育を提供できるよう、学んだ研修の中から3つの研修についての取り組みをご紹介します。

幼児期は運動機能が急速に発達する時期です。動作の習得は10歳までが重要だということを学び、改めて私たちの責任を感じました。

実技研修では音楽に合わせて体を動かすリトミックや

ダンス、鉄棒や跳び箱などの運動遊びを学び、体操教室や日々の教育・保育に取り入れています。今年度は、研修で学んだ体操を、4歳児が運動会のマスゲームで生きいきと発表してくれました。

保育教諭が一緒に、運動や踊りなどを楽しみながら表現することで、憧れの気持ちを抱き、自主的に「やりたい」「どうやってやるの?」という気持ちを引き出すようにしています。また最後まであきらめず、挑戦しようとする気持ちと、できた達成感を味わえることを願いながら進めています。

運動遊び

自然研修では実体験を通して心情が育まれることを学びました。その学びを生かし取り入れたのがダンゴムシの観察です。

まず、ダンゴムシはどんな所にいるのかを子どもたちと一緒に考えながら探しまし

た。見つけたダンゴムシを觀察していると「なんで丸くなれるの?」「足がたくさんある」となどの素朴な疑問や発見がありました。それらのことを

自主的に調べられるよう図鑑を用意したり、保育教諭がヒントを与えてたりし、より

興味を深められるようにしました。



自然観察



他に、身近な昆虫の飼育、花や野菜の栽培を通して、生体の不思議さや面白さを感じることができます。また育てたのに死んでしまった、枯れてしまつたなどの体験を通して、命の大切さを感じる心が育まれるようになっています。

わらべうた遊び



伝承されてきたわらべうたは童謡と違い、楽譜があります。わらべうたは音域で構成されているので、0歳児から5歳児まで教育・保育の中で大いに活用しています。小さい子には「いいなあ」「だるまさん」など、ふれ合いながら行うことで保育教諭との信頼関係が築けるようにしています。少し大きくなり、お話をできるようになると「もう一回」とせがんだり、他の子がしていると「自分もしたい」と伝えに来たりします。その都度、

大きい子が楽しむわらべうた遊びの中には、縄跳びなどの身体、運動機能の発達につながるものもあります。ただ縄跳びを跳ぶだけよりも「ゆうびんやさん」など、歌に合わせた方が子どもたちもより楽しんで遊ぶことができます。

子どもの成長に合わせて数人で行ったり、友だちと楽しさを共有できるようにしたりします。また「次、○○ちゃんとしようね」など順番を知らせています。

わらべうた遊びでの成功体験は、思考力や協力し合う心、集中力など、さまざまなもの力を育みます。このように年齢毎のねらいや一人ひとりに合わせた配慮をし、全員が楽しめるように行っています。

わらべうた遊びでの成功体験は、思考力や協力し合う心、集中力など、さまざまなもの力を育みます。このように年齢毎のねらいや一人ひとりに合わせた配慮をし、全員が楽しめるように行っています。

わらべうた遊びでの成功体験は、思考力や協力し合う心、集中力など、さまざまなもの力を育みます。このように年齢毎のねらいや一人ひとりに合わせた配慮をし、全員が楽しめるように行っています。



平成27年度に受講した研修一覧

- ・公私立保育園、認定こども園合同研修
 - ① 0～5歳の年齢別研修
 - ② リーダー的職員研修会
- ・実技専門講座
- ・福井県保育研究大会
- ・子どもの運動発達をふまえた教育
 - ① 運動会実技講習会
 - ② 運動遊び元気セミナー



保育について

- ・市町職員等児童虐待防止研修会
- ・幼稚園教諭免許取得及び更新講座
- ・幼保小接続講座(キレイな子を育てる)
- ・障害児研修
- ・普通救命講習会

他22講座 延べ93名参加

今後も教育・保育の中に研修での学びを取り入れ、子どもたちが「生きる力」を育むことができるように、取り組んでいきます。



報告会での様子